

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

平成26年6月末	平成26年9月末	平成26年12月末見通し	平成27年3月末見通し
+62千トン [2417"] (102.7%)	-10千トン [2407"] (99.6%)	-103千トン [2304"] (95.7%)	-4千トン [2300"] (99.8%)
2349千トン(97.1)	2353千トン(97.7)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成26年6月末	平成26年9月末	平成26年12月末見通し	平成27年3月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は85300円で前年比+8,900円、前期比では-500円。消費増税の反動は軽微であった。だが、需要の出遅れによる停滞感は払拭されず、先々の需要を睨みながらも気重い市場環境となっていた。また、在庫は減少傾向となったが、減り方が緩慢で市況にインパクトを与えず、品種によっては下落場面もあった。総じて横這い基調であり、活況感に乏しい展開であった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は85200円で前年比+7,300円、前期比では-100円。秋口になっても気重い市場動向が継続していた。需要は一部製造業、中小物件が出始めて、遅れ気味ながらも増加傾向であった。市況は弱含み横這いで、メーカー値上げを反映できず採算性確保が懸念された。在庫は減少方向にあったが、減り方が緩慢で、市場にインパクトを与えるほどではなかった。	市況は一部電炉の値下げ発表もあり、弱含み横這いで膠着したままである。販売面においては昨年ほどの活況感はなかったが、実績としては大きく落ち込まず、ほどほど感があった。ただ、仕入れの上昇が粗利の低下を招き、採算性が阻害される局面が続きそれが解消される見込みが立たない趨勢にあった。底堅い需要に支えられているが、個々の商売において価格維持に汲々としているのが販売店の実情だと思われる。	前期の基調を引き継ぎ、販売量の確保はある程度見込めるものの、市況が弱含み横這いで推移すると思われるため、販売価格上昇が望めない状況であろう。人手不足が常態化しているとはいえ、出遅れていた物件が公共工事を中心として徐々に出件され、設備投資関連にも動意の兆しはあるが、季節的な落ち込みはあるが、需要自体が減退するとは思えない。需要の底堅さはあるが盛り上がるののない市場動向が年度末まで続くだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

現状の市況推移では在庫を積み増しする状況ではない。在庫は一進一退を繰り返しながらも減少方向であるが、目立った減少局面は考えにくい。買い手からするといつでも必要な材料は入手可能という状況が続いている。在庫の絶対量としては過剰感ではないが、未だ販売見合いの在庫量にはなっていないため、仕入れを抑える動きが継続するだろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 秋需も期待されたほどではなかったが、中小物件を中心にまずまずの底堅い動きを継続しているが、電力会社の一部不買発表を受けて太陽光発電の架台にブレーキが掛かってきている。住宅関連は関西では消費増税後の落ち込みがまだ、続いている。市況は膠着状態のまま横這い推移。来期は建築案件が一巡し、目立った大型物件はないものの、引き続き中小物件は継続して行きそうだ。一方で小口中心ながら公共工事もピークに入ってくると思われる。流通は採算を意識し価格維持に踏ん張らなければならないだろう。

(愛知) 全般的に弱含み横這いの商況の中で精彩を欠く動きとなっているが、販売量は締めてみるとそれほど悪い実績とはなっていない。価格面で先安感はあるが、これも今後の需要の出方次第で踏みとどまるのではないかと。1~3月については期待していないが、大きな落ち込みもないと思っている。